

【運営方針4】開かれた農大づくり

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

| 【基本方向】地域との連携や貢献活動等による情報発信 | | | | | |
|---|--------------------|--|--|----------------------------|---|
| 評価項目 | 評価目標 | 具体的方策と指標・基準等 | 取組状況 | 評価 | 成果と課題・次年度に向けた改善策 |
| 1 地域と連携した課題解決に向けた学生によるプロジェクトの実施（地域連携課題プロジェクト） | (1)プロジェクト実施数:7課題 | ①地域連携課題プロジェクトの実施(継続) 全学科の学生が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、地域の状況を把握しながら協働先、連携先を定め、課題への対応策の提案や地域活動の支援を行う。 | ・本校の全学科において、学生が各々の学習内容を生かし、プロジェクト活動に取り組んだ。主な取組みは下記のとおり。 (果樹経営学科)最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議と連携し、適正着果による高品質果実生産に向けた現地実証、最上さくらんぼ品評会での参考出展、秋季講習会での卒論の成果紹介、剪定名人による冬期管理講習会等により産地振興に向けた取組みを行った。 (野菜経営学科)最上伝承野菜推進協議会と連携し、「角川かぶ(戸沢村)」の生産組織や関係機関と協力して、優良系統選抜と採種を行った。 (農産加工経営学科)農村生活研究グループ最上地方連絡協議会と連携し、「手作りの味交換会」で「米」をテーマに、イベントPR、料理・加工品の展示、体験コーナー運営などに取り組んだ。また、協議会からの要望で、「しその実」の塩蔵方法の検討と米粉ピザ作りに取り組んだ。 | (1)・・・C プロジェクト実施数:7課題 | ・(果樹経営学科)さくらんぼの現地実証圃(鮭川村)で適正着果管理を実施したところ、果実の高品質化が図られた。また、卒業論文の総まとめとして、農業技術普及課と連携し、栽培講習会で卒業論文の成果を情報提供した。さらに、最上さくらんぼ品評会に参考出品し、品質等で高い評価を得た。次年度も関係機関と連携し、高品質果実の安定生産対策を実施する。 ・(野菜経営学科)「角川かぶ」の生産者と調査しながら、形質が優良な2系統を選抜しており、世代を進め採種を行なう。また、播種時期や施肥量の違いによる収量、品質を調査し、産地振興に取り組む。 ・(農産加工経営学科)活動を通して地域の農産加工実践者と交流を深めながら、イベントには学生らしい提案・発想で取り組んだことから、協会会員からは活動の活性化につながったと好評だった。 ・このほか、稲作経営学科では小学生を対象に「バケツ稲作り」による農業体験プロジェクト、林業経営学科では保育園児が森と木に親しむ木育活動に取り組む木育活動に取り組む木育活動を通して理解を深められるよう活動した。 ・活動発表会で連携先からいただいた助言や感想を、来年度の活動に生かしていく。 |
| | (2)地域と連携した取組み数:3課題 | ②地域と連携した取組み(継続) 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」や「山形県ホルスタイン共進会」、肘折温泉女将会と連携した「山菜の食まつり」への参画等、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての学生参加を通し、当校の学習成果を紹介する。 | ・花き経営学科では、新庄市と連携して「最上中央公園(新庄駅東口)」の飾花活動に取り組んでいる。 ・畜産経営学科では「山形県ホルスタイン共進会」への出品した。 ・農産加工経営学科では、大蔵村肘折温泉で開催される「山菜の食まつり」に学生が考案したレシピを持って6チームが参加した。 | (2)・・・C 地域と連携した取組み数:3課題 | ・花き経営学科では本校産の花壇苗等を新庄・最上地区の玄関口である「最上中央公園」に植え付け、生育期間中の管理を行なっている。学生がデザインした植栽として評価されており、来年度も参加する計画である。 ・畜産経営学科が出品した「山形県ホルスタイン共進会」では、入賞はできなかったが、県内トップレベルの出品に触れ、今後の学習に結びついている。来年度も出品予定である。 ・農産加工経営学科が参加した肘折温泉の「山菜の食まつり」では、学生が考案した6品を持って審査に臨んだところ、2品が入賞し、温泉の宿泊客にメニューとして提供された。 |
| 2 学生のボランティア活動への支援 | (1)取組み数:5取組 | ① 学生主体の地域貢献活動支援(継続) 学生が社会経験を積むことにより、今後の学習や進路選択に生かせるよう、学生のボランティア活動を支援する(品評会への出品・出展、さくらんぼサポーター活動、新庄まつりや新庄そばまつりや新庄市中心商店街イベントの運営スタッフ、高齢者宅の除雪作業への参加等)。 | ・さくらんぼの収穫労働力の支援として、学生ボランティアサークルが中心となって「さくらんぼサポーター」を結成し、6月15日に東根市の園地で収穫・調整作業に取り組んだ。 ・「山形県農林水産祭・林業まつり」においては、林業経営学科の学生が青年林業士とともにクラフト作成の指導や高性能林業機械のオペレーターを務めた。 ・関係機関や団体が開催する新庄そばガールズ(8～11月)、献血啓発(12月)、高齢者世帯除雪支援(2月)、新庄雪まつり(2月)等について、学生会と学校が協力しながらボランティア活動を行った。さらに本校学生3名が、今年度本格デビューした水稲新品種「雪若丸」のPR活動に参加した。 | B 取組み数:7取組 | ・「さくらんぼサポーター」として、学生9名が、主産地の園地で収穫や出荷作業のボランティア活動し、好評を得た。参加学生からは、さくらんぼ主産地の栽培管理や労力不足等の実態に触れることができたとの感想があった。次年度以降も、労働力確保が求められることから、活動継続の予定である。 ・専攻分野に関係するボランティア活動は専門性が高く、学生がスタッフとして一般参加者に指導(補助)者として活動することで、学生は担い手としての認識を新たにし、コミュニケーション能力の向上にもつながっている。水稲新品種「雪若丸」のPR活動では、県内での販売プロモーションや試食会等に参加し、貴重な体験となった。次年度も職員同行のうえで関係機関・団体と連携しながら、積極的に参加していく。 ・関係機関・団体から依頼のあるボランティア活動も、地域活性化等を目的に年々増加している。農大生が参加する啓発活動として評価を得ており、報道機関に取り上げられる機会も多い。このため、今後も学生会と日程調整等を行いながら取り組んでいく。 |
| 3 高大連携の交流活動の取組み | (1)連携活動数:5取組 | ① 高大連携活動の実施(継続) 県内の全農業関係高校、山形大学農学部との「高大連携事業」として「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」及び高校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言等を実施することにより情報共有と連携強化を図る。 また、高校生の林業に対する理解を促進するため、森林経営に関する授業の実施及び刈払機やチェーンソーの安全操作を指導する。 | ・山形大学農学部と県内6つの農業高校と協力して「第9回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」を開催した。高校生、農大生、山形大学農学部学生による意見発表・プロジェクト発表「山形の農林業を支える私たちの挑戦」をはじめ、基調講演「IoTを用いた次世代農業」及びパネルディスカッション「今後の山形の農林業を支えていく新たな挑戦」を実施した。 ・山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会が開催され、東北連盟大会の意見発表及びプロジェクト発表へ出場する高校生に助言等を行なった。 ・高大連携実技講習会(おうとう・りんごの冬期管理講習会)を開催した。 ・高校生への林業・森林経営に関する授業は、7～9月にかけて2つの高校で実施した。 ・今年度の本校創立記念特別講義では、東京大学大学院生命科学研究所の中嶋康博教授を講師にお招きし、「新時代の展望 ～平成期の農業と農業施策を振り返りながら～」という演題で講演していただいた。 | C 連携活動数:5取組 | ・シンポジウムの意見発表とプロジェクト発表では、本校学生が、将来の抱負や卒業プロジェクトの成果を発表した。基調講演では、山形大学におけるスマート農業の研究等、AIやIoTを使った最新の機械・技術の開発について紹介していただき、今後の高齢化、人手不足への対応や、今後の農業経営の方向について考える機会となった。さらに、パネルディスカッションでは、各パネラーが取り組むスマート農業にかける思いをお聞きし、学生の学習意欲の向上につながった。 ・今年度は本県において開催された高校農業クラブ連盟の東北大会での入賞を目指し、プロジェクト発表、意見発表の各出場者に対して助言指導を行った。また、同大会には本校校長がそう審査委員長として参加した。来年度は、全国大会が南東北大会(福島県・宮城県・山形県共催)として開催されることから、事務局の高校と連携しながら開催支援を行なう。 ・高大連携実技講習会には、当校の職員・学生をはじめ、農業高校や山形大学農学部の教職員、最上地域の果樹農家も参加し、篤農家技術を実技を通して学ぶことができた。次年度の活動内容については、連携強化推進会議で協議しながら実施する。 ・今年度の創立記念特別講義では、中嶋教授から、戦後～高度経済成長期～成熟社会～人口減少社会と社会情勢が変化する中、農業においては過去のビジネスモデルは通用しないので、新たな成長戦略が必要であり、グローバル化と持続可能性について御教示いただいた。その後、学生との意見交換会を開催した。来年度の本校創立記念特別講義においても、各分野の第一人者による講演会を開催する予定である。 ・高校生への林業・森林経営に関する授業は、高校と日程・内容を調整しながら来年度も実施する。 |
| | | ② キャンパスツアーや出前授業の実施(新規) 農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施する。 また、出前授業では、各学科の職員が高校を訪問し、講義や実習を通して農業や林業の役割・意義や学習内容等について紹介する。 | ・今年度新規事業として「農林大学校キャンパスツアー」を開催した。学年単位で来校した高校3校に対して、本校の概要や学習内容、学校生活、施設の案内や卒業後の進路を説明し、本校への理解促進に努めた。 ・高校へ伺っての出前授業は3校で実施し、本校職員が参加高校生に講義や実習指導を行った。 | | ・各高校の地域における農林業生産状況や学習内容等を踏まえて本校の各学科職員を派遣し、地域の農林業に対する関心を高めてもらった。来年度も高校と時期や内容を調整しながら開催する。 |
| | | ③ 他県農大との交流活動の実施(継続) 宮城県農業大学校と農大祭の相互交流を実施する。 | ・宮城農大と本校の学生会の代表者がお互いの農大祭を訪問し、特産の農産物や農産加工品を販売したり、イベントに出場してPR活動を行なった。また、「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」に宮城農大職員が参加し、交流した。 | | ・本校の農大祭では、宮城農大から野菜や農産加工品の販売があった。11月11日の宮城農大祭では、本校から精米「つや姫」「西洋なし(ラ・フランス、バラード)」や野菜、農産加工品等を販売し、好評だった。次年度も、相互交流を行なう計画である。 ・他県農大の特別講義や研修会等に参加し、相互交流を図る。 |

| | |
|---|---------------------------|
| <p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携課題プロジェクトでは、各プロジェクトとも協働先から一定の評価をいただいている。次年度に向けて、成果や実績を検討し、必要に応じてプロジェクト課題の見直しを行ととも、卒業論文のテーマに反映されるような活動になるよう、さらに充実を図る。 学生ボランティア活動は、学生がコミュニケーション能力を高め、社会経験を積む場となっている。関係機関からの依頼が多く、取組件数が増加しているため、学生会等と相談しながら取り組んでいく。 高大連携の取組みは、今後の農林業の担い手育成のために必要であることから、3機関の機能を生かし連携しながら取り組んでいく。 | <p>評価</p> <p>C</p> |
|---|---------------------------|

| | |
|--|---------------------------|
| <p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらんぼサポーター等のボランティア活動に取り組んでいるが、鶴岡のただちや豆も労働力不足だと聞く。今後どのように活動するか。→ボランティア活動は、社会貢献のほか、学生のコミュニケーション能力向上にもつながることから、今後ともニーズ等の情報を収集しながら取り組んでいく。 林業経営学科で保育園児が森林・木材に親しむよう活動しているが、一般的に、山は危険とか鳥獣被害が問題となっているので、これらのイメージを払拭する取組みも必要である。→林業に対する理解を促進するため、山に親しむという視点は大切である。学生は、実習でエコツアーやトレッキングを体験しており、就職後、山や森林を楽しむことを周りに伝えて欲しいと考えている。さらに、卒論で「森林・林業環境学習プログラム」の作成に取り組む、園児・児童の林業への理解促進に努めているところである。 | <p>評価</p> <p>C</p> |
|--|---------------------------|